

会 議 要 録

名 称	第 7 回 西予市中学校再編検討委員会	
事 務 局	教育委員会教育部教育総務課学校再編係	
	電 話 0894 - 62 - 6430	
	F A X 0894 - 62 - 6564	
開 催 日 時	令和 8 年 6 月 17 日 (水) 18 : 58 ~ 20 : 47	
開 催 場 所	西予市役所 5 階 大会議室	
出席者	委 員	22 名 (欠席 3 名)
	その他	
	事務局	教育部長 教育総務課 5 名 学校教育課 3 名 まなび推進課 2 名
議事内容(要旨)		
委員長	<p>進行：教育総務課長</p> <p>1 開 会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>西予市中学校再編検討委員会設置要綱（以下、要綱）第 6 条第 1 項により、進行（議長）は委員長。</p> <p>委員 22 人の方が出席であり、過半数以上の出席があることから、要綱第 6 条第 2 項により会議が成立することを報告する。</p> <p>（1）前回検討委員会の確認について</p>	
委員長	<p>前回検討委員会の確認についての説明を事務局に求める。</p>	
事務局	<p>前回検討委員会の確認について説明する。</p>	

<p>委員長</p>	<p>事務局からの説明のとおり、前回の検討委員会では、いずれかの案に結論を出すというよりも、再編において重視すべき観点が明確化された。これを踏まえ、通学面や地域事情への配慮の観点から、基本的には2校案をベースとして検討を進めるべきとの意見が多く示されたと認識している。</p> <p>一方で、将来的な生徒数の減少を見据えると、1校案についても重要な選択肢として引き続き検討を行う必要がある。</p> <p>以上より、検討委員会としては、当面は2校案を中心に検討を進めつつ、生徒数が一定規模を下回る場合には再度の再編について検討を行う方向で進めることとしたい。これについて異議はないか。</p>
<p>委員A</p>	<p>個人的には当初から1校案が望ましいと考えている。令和13年度には野村中と城川中を合わせて約130人規模となる見込みであるが、その約7年後には60人を下回る見通しとなっている。このような状況において、一旦2校案で再編を行ったとしても、短期間のうちに再び小規模化が進み、不適正規模となる可能性が高い。その場合、再度同様の検討や協議を行うことになるが、そうした対応のあり方について疑問を感じる。</p> <p>また、仮に将来的に1校案への再編が見込まれるのであれば、新たな校舎整備や空調設備の更新などについても、短期間での再対応が必要となる可能性があり、財政的観点からも慎重な判断が必要ではないかと考える。</p>
<p>委員長</p>	<p>数年後に1校案について改めて検討が必要となる可能性を踏まえると、現段階から1校案の方向性で検討を進めるべきではないかとの意見であった。</p>
<p>委員B</p>	<p>2校案の提案に際しては、選択制の導入に関する意見もあったと認識している。仮に2校体制となった場合には、通学距離や保護者負担等も踏まえ、どちらの学校を選択するかについて、保護者や生徒の意向を考慮する必要があるのではないかと感じた。</p> <p>しかしながら、今回の報告ではその点に関する説明が見られなかったため、その取扱いについて確認したい。</p>
<p>委員長</p>	<p>2校体制とする場合には、学校を選択に関する仕組みについても本検討に適切に反映させるべきではないかとの意見であった。</p>

委員 C	<p>前回の協議では 2 校案が適当ではないかとの考えで参加していたが、その後改めて考える中で、通学負担の観点の重要性を強く感じた。特に校長から、通勤であっても片道 30 分程度が一つの目安であるとの話があり、これを踏まえると、子どもにとっての通学時間の負担はより大きいものと認識した。</p> <p>片道 1 時間の通学となると、往復で 1 日 2 時間を要することとなり、身体的・精神的な負担も大きい。通学時間を学習に活用することも容易ではなく、負担増につながる可能性が高いと考える。</p> <p>このため、1 校案・2 校案のいずれを選択するにしても、子どもの通学負担という観点を十分に踏まえ、慎重に検討する必要があると考える。</p>
委員長	<p>通学負担等を総合的に考慮した場合、2 校案が妥当ではないかとの意見であった。これを踏まえ、前回の検討委員会における議論を整理すると、全体として 2 校案を支持する意見が比較的多く出されていたとの認識がある。</p> <p>そのため、今後の検討については、2 校案を基本方向として進めることとしたい。</p>
委員 A	<p>本日のように関係者が集まって協議を重ねているものの、次の再編を考える時期に再び同様の議論を行うことになるのではないかと懸念している。</p>
委員長	<p>検討委員会全体としては、これまでの議論を踏まえると 2 校案を支持する意見が多く示されてきたとの認識である。そのため、基本的には 2 校案の方向で検討を進めたいと考える。</p> <p>一方で、1 校案・2 校案の双方について改めて検討を行うことも可能ではあるが、検討に充てられる時間が限られていることから、その進め方について委員の意向を確認する必要がある。</p>
委員 C	<p>仮に数年後に再度検討の場が設けられた場合、いったん 2 校案で再編を行ったという経緯があるため、同じ議論の繰り返しにはならないと考える。</p> <p>2 校体制に集約した際に生じた課題や問題点について、関係者間で共有した上で、改めて今後の在り方を検討することになるため、今回はより具体的かつ異なる視点での議論が可能になるのではないかと考える。</p>

委員A	<p>宇和中学校に関しては、建て替えると聞いているが、2校目については、どのように考えているのか。</p>
事務局	<p>宇和中学校については、建物の老朽化により建て替えが必要な状況にある。一方、城川中学校は建築後25年が経過しているものの、良好な状態を維持している。野村中学校については、令和4年に大規模改修や外壁の全面改修を実施しており、現時点では再編に伴う建て替えの計画はない。</p>
委員長	<p>これまでの意見を踏まえ、2校案を基本として検討を進め、将来的に再度再編を検討する場合には、その時点の状況に応じて建設的な意見交換を行っていく考えで、ご理解いただき、その上で、検討委員会としては、2校案を前提とし、各グループにおいてグループワークを実施するという共通理解で良いか。</p>
委員	<p>(委員了承)</p> <p>(2) グループワーク 【パート①】2校案の統合場所について</p>
委員長	<p>配布資料について説明を事務局に求める。</p>
事務局	<p>配布資料について説明する。</p> <p>グループワークに移るにあたり、先ほど説明のあった資料も参考にしつつ、2校案について検討を進めてほしい。</p> <p>特に、統合場所、将来的な再度の再編検討の目安の2点を主な検討事項として、意見交換を行ってほしい。</p> <p>(グループワークにより意見交換)</p>
委員長	<p>各グループで、話し合われたことを発表していただきたい。</p>
グループ①	<p>2校案における統合場所については、宇和中学校と野村中学校が候補として挙げられた。いずれの学校も生徒数が比較的多いことから、仮に別の場所へ統合した場合、多くの生徒の移動が必要となり、通学負担の増大や現実性の面で課題があるとの意見が示された。</p>

<p>グループ①</p>	<p>また、野村中学校については、寄宿舎の活用が可能であることや、スクールバスの新規購入が不要となる可能性があること、さらに給食センターが利用できる点など、経費面での利点があるとの意見があった。</p> <p>再編の再検討の目安については、将来的に生徒数の減少により複式学級の編成が避けられなくなった場合が一つの基準となるのではないかとの意見が出された。加えて、学校行事の適切な運営が困難となった場合も、検討の目安となり得るとの意見が示された。</p>
<p>グループ②</p>	<p>2校案における統合場所については、宇和中学校と城川中学校とすることで意見がまとまった。</p> <p>宇和中学校についての理由は、グループ①とおおむね同様であった。一方、城川中学校については、野村中学校でも耐震工事や外壁工事が実施されているものの、全体として老朽化が進んでおり、安全面に対する懸念があることから、城川中学校の方が適当ではないかとの意見で一致した。</p> <p>また、将来的な再編の再検討の目安については、グループ①と同様に、生徒数の減少により複式学級となる前の段階で、再度再編を検討することが望ましいとの意見が示された。</p>
<p>グループ③</p>	<p>2校案における統合場所については、宇和中学校と野村中学校とする意見であった。理由としては、両校とも生徒数が比較的多く、仮に城川中学校とした場合には野村方面から多くの生徒が移動することとなり、通学負担の増加が懸念されるためである。</p> <p>再編の再検討時期については、生徒数の減少により複式学級の編成が見込まれる時期を一つの目安とし、1校案への移行について検討を開始することが望ましいとの意見が出された。</p> <p>また、校舎の建て替えに関しては、新築の場所としてグラウンドの活用も選択肢として考えられるとの意見があった。仮設校舎をグラウンド等に設置した上で、既存校舎のある場所に新校舎を整備する方法についても意見が示された。</p>
<p>グループ④</p>	<p>事務局に野村中学校の利用年数を問い合わせたところ、約70年から80年の利用と見込まれており、現在の経過年数を踏まえると、今後16年から26年程度は使用可能であるとの説明があった。この点を踏まえ、宇和中学校と野村中学校を統合先とすることが妥当ではないかとの意見にまとまった。</p>

<p>グループ④</p>	<p>また、野村中学校については寄宿舍の活用が可能である点も評価された。さらに、令和 20 年度時点で城川中学校と統合した場合の生徒数は約 58 名と見込まれており、この規模であれば学校運営は十分可能であるとの認識が示され、将来的にも運営面での支障は少ないとの判断に至った。</p> <p>加えて、学校規模については、小規模校でのきめ細かな指導を重視する考え方と、中学校では一定規模の中で多様な経験を通じて成長を促すべきとする考え方の双方があることが共有され、保護者の意識によって捉え方が異なるとの意見が出された。</p> <p>再編の再検討時期については十分な議論の時間が取れなかったものの、可能な限り現在の 2 校体制を長く維持する方向が望ましいとの意見で概ね一致した。</p>
<p>委員長</p>	<p>グループワークにおいては活発な議論が行われた。2 校案の統合場所については、4 グループ中 3 グループが宇和中学校と野村中学校を挙げ、1 グループが宇和中学校と城川中学校を挙げる結果となった。</p> <p>統合校の選定に当たっては、寄宿舍の有無、生徒数規模、移動による通学負担、コスト、給食センターの利用可能性などが主な判断基準として挙げられた。また、将来的な生徒数の推移も考慮すべき要素として共有された。</p> <p>再度の再編検討の目安については、多くのグループから、複式学級となることが見込まれる前段階や、学校行事の適切な運営が困難となる段階を一つの基準とする意見が示された。</p> <p>さらに、校舎の建て替えに関する意見や、可能な限り 2 校体制を維持しながら学校運営を継続していくことが望ましいとの意見も多く見られた。</p> <p>本日取りまとめた内容については、答申に反映していく。</p>
<p>委員長</p>	<p>(2) グループワーク</p> <p>【パート②】配慮すべき事項</p>
<p>事務局</p>	<p>配布資料について説明を事務局に求める。</p>
<p>委員長</p>	<p>配布資料について説明する。</p> <p>パート 2 の検討としてグループワークに移行するにあたり、ワークシートでは 3 つの柱が設定されているが、本日は時間の</p>

<p>委員長</p>	<p>都合により、柱の1および2を中心に意見交換を行うこととしたい。</p> <p>なお、3については次回の検討委員会において扱うこととし、ご理解いただきたい。</p> <p>(グループワークにより意見交換)</p>
<p>委員長</p>	<p>各グループで、話し合われたことを発表していただきたい。</p>
<p>グループ①</p>	<p>配慮すべき事項として、「学校運営と教育の質」および「生徒の心のつながり」について意見交換が行われた。</p> <p>まず学校運営については、統合により3校または2校が一体となることから、それぞれの学校の特色を融合させた運営が望ましいとの意見があった。また、地域の特性に応じた取組を推進するため、地域コーディネーターの配置も有効ではないかとの提案があった。</p> <p>特別支援教育については、保護者や地域に対する理解促進を行政と連携して進める必要があること、通級指導学級の設置の検討、制度の現状や生徒の特性を踏まえた適切な配置が重要であるとの意見が示された。</p> <p>通学支援については、スクールバスの運行に必要な運転手の確保が課題となる可能性が指摘され、必要人数の確保に対する懸念が示された。</p> <p>次に、生徒の心のつながりについては、統合前から宿泊研修や学校行事等を通じて学校間交流を図ることが重要であるとの意見があった。また、地域における交流拠点や環境整備の必要性についても言及があった。</p> <p>さらに、保護者同士や保護者と教職員の交流機会を充実させることの重要性についても意見が共有された。</p>
<p>グループ②</p>	<p>配慮すべき事項のうち「学校運営と教育の質」については、主に通学時間に関する意見が出された。具体的には、スクールバスについて小学生と中学生の同乗を検討することや、公共交通機関やデマンド交通の活用を図ることが提案された。また、寄宿舎の利用に関する規定の緩和についても検討が必要ではないかとの意見があった。</p> <p>次に「生徒の心のつながり」については、再編前の段階から小学生を含めた交流機会を設けることが重要であり、スポーツ大会や修学旅行等を合同で実施することが提案された。さら</p>

<p>グループ②</p>	<p>に、再編後においても二校間の交流を継続する必要性が指摘された。</p> <p>加えて、支援員やサポートルームの適切な配置、子どもたちの居場所づくりの充実が重要であるとの意見が示された。</p>
<p>グループ③</p>	<p>配慮すべき事項については、「学校運営と教育の質」および「生徒の心のつながり」を中心に意見が出された。</p> <p>まず学校運営に関しては、学校行事実施時の保護者駐車場について、現状の施設で一定程度対応可能ではないかとの意見があった。また、職場体験については受入事業所の拡大や対象地域の範囲を広げることで、より多様な体験機会を確保できるのではないかとの提案があった。さらに、地域行事への参加や文化交流の促進も重要であるとの意見が示された。</p> <p>特別支援教育については、対象生徒の増加を見据え、教員に加えて生活支援員の増員が必要であるとの指摘があった。また、サポートルームについては現状1か所に限られているため、他校にも増設することが望ましいとの意見が出された。</p> <p>通学支援については、公共交通機関の利用者に対する補助の検討や、既存のバス運行を活用した効率的な通学手段の確保について具体的な提案があった。また、現在の運行委託の状況についても考慮すべきとの意見が示された。</p> <p>次に、生徒の心のつながりについては、校内におけるサポート体制の充実に加え、SNSを通じたトラブルやいじめへの対応の重要性が指摘された。これに関連して、学校だけでなく家庭におけるルールづくりや、保護者による生活面の把握も重要であるとの意見があった。</p> <p>さらに、部活動の地域移行に伴い、生徒同士や保護者同士の関係性が希薄化する可能性があることへの懸念も示され、子ども同士の交流や保護者間のつながりを維持・強化する仕組みづくりの必要性が指摘された。</p>
<p>グループ④</p>	<p>生徒の適応支援に関して、統合初期において円滑に学校生活になじめるよう、オリエンテーションの機会を設けることが有効ではないかとの意見が出された。</p> <p>また、学級編成については、教員の目が十分に行き届くよう適正な人数で構成することが重要であり、それによりいじめの未然防止や早期対応にもつながるのではないかとの指摘があった。</p>

<p>委員長</p>	<p>本日の意見を総括すると、特に「学校運営と教育の質」については、ハード面とソフト面の両面から多様な視点の意見が示されたと整理される。</p> <p>ソフト面では、学校や地域の特性に応じた教育を推進するため、地域コーディネーターの配置などにより特色ある教育活動を展開していく必要性が指摘された。また、特別支援教育に関しては、理解の促進に加え、サポートルームの増設や支援員の増員など、体制の充実を図る必要があるとの意見が多く示された。</p> <p>一方、ハード面では、通学に関する課題としてスクールバスの運行や寄宿舎利用の在り方、規定の見直しなどについて具体的な提案がなされた。</p> <p>次に「生徒の心のつながり」については、再編前後を通じた交流の機会を充実させることの重要性が多く指摘されたほか、子どもたちの居場所づくりや校内サポート体制の強化が必要であるとの意見が示された。また、保護者と教職員、さらには保護者同士の交流を通じて、子どもたちを支える環境づくりを進めることの重要性も共有された。</p> <p>さらに、教職員の適正配置や学級規模の適正化など、教育環境全体の整備の重要性についても意見が出された。</p> <p>本日取りまとめた内容については、答申に反映していく。</p> <p>(3) その他</p>
<p>委員長</p>	<p>その他について、事務局に説明を求める。</p>
<p>事務局</p>	<p>その他（次回開催予定）について説明する。</p> <p>7月開催予定日について説明する。</p> <p>（日程調整）</p>
<p>委員長</p>	<p>次回検討委員会を、令和8年7月2日 木曜日 19時開始 西予市役所5階大会議室とする。</p> <p>4 その他</p> <p>特になし</p>

